

新年度が始まり1か月余りが過ぎました。外国語活動の授業では、子どもたちの英語を話す元気な声が教室に響いていることでしょうか。初心忘れずという言葉がありますが、今の意欲に満ちた状態が来年の3月まで続くことが重要です。そのためにも、先生方が子どもたちの興味・関心をしっかり把握し、気持ちに寄り添いながら、共に学んでいこうとする姿勢をもち続けることが大切です。



保護者への周知は進んでいますか。

保護者への外国語活動の周知の状況はいかがでしょうか。保護者は、小学校で外国語活動が始まることに対して、様々な思いを抱えておられることでしょうか。すぐにでも英語が聞けるようになったり、話せたりするようになるといった過剰な期待や、逆に塾に行かせないと授業についていけないのではないかといった不安を感じておられる方もあるかもしれません。過剰な期待や不安をそのままにしておきますと不満や、不信感が生じてしまうことも懸念されます。



そこで、学校だよりや学年だより等を通じて、保護者に次のようなことを知らせることが重要です。

- 1 外国語活動のねらい
- 2 使用している教材
- 3 授業の様子

また、言葉でいくら説明しても伝わりにくい面もあると思います。参観日に、外国語活動の授業を実施し、保護者会で説明するなどにより理解が深まります。早い段階での、外国語活動の周知が大切です。

外国語活動の評価に係る情報提供です。

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会から「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」が出されています。以下にその内容を掲載します。

小学校「外国語活動」については、現在、「総合的な学習の時間」の評価において行われているような、評価の観点を設定し、それに即して、文章の記述による評価を行うことが適当である。

また、評価の観点は、中・高等学校における外国語科との連続性に配慮して設定する必要がある。

具体的には、学習指導要領に定める「外国語活動」の目標、すなわち、言語や文化に関する体験的な理解、コミュニケーションを図ろうとする態度、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむことについて観点を設定し、学習評価を行うことが適当である。

外国語活動の評価の観点、方法等については、「小学校外国語活動だより3号」で既に紹介していますので、御確認ください。

小・中連携を推進していきましょう。

小・中学校の連携については、学習活動や生徒指導など様々な分野でその重要性が認識され、情報交換や相互乗り入れ授業等の取組が実施されています。外国語活動についても同様に小・中学校の連携が極めて重要です。現在小学校では、移行措置期間で各学校の実態に合わせて外国語活動の授業が実施されており、その子どもたちが来年度中学校に入学します。中学校の先生方は、校区内の小学校で何時間程度、どのような授業内容が実施されているのか把握しておく必要があります。特に複数の小学校から入学者がある場合、中学校での初期の指導において考慮する必要があります。



また、小学校外国語活動の目標は、「コミュニケーション能力の素地を養う」ことであり、中学校外国語科では「コミュニケーション能力の基礎を養う」ことです。コミュニケーションという点では共通しており、小学校で育ててきたものを、中学校でどう引き継ぎ、いかに発展させていくかが大きな課題です。さらに、小学校では「聞くこと」、「話すこと」といったスキル（技能）の獲得は目標ではありませんが、中学校では「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の4技能の育成が目標になります。そのため、授業の様子も小・中学校で異なります。

そこで、まず、小・中学校の先生方同士が互いの授業を参観され、授業の進め方の違いを認識すると同時にその特色を理解することが大事です。そして、相互乗り入れ授業や合同での研修を実施し、最終的に小・中学校で目標に一貫性をもたせるとともに、指導の内容と方法に系統性と継続性をもたせることが重要です。

年間指導計画・指導案を作成しましょう。

今年1年間で、5・6年生の年間指導計画及び各学年の指導案を25時間分程度作成し、校内の共有フォルダに電子データで保管したり、紙媒体で教材整理棚等に保管したりして誰でも閲覧できるようにおきましょう。そうすることにより、誰でもいつでも指導案を見ることができ、全面実施の年を迎え、新たな担任が授業を考える場合に大変活用しやすくなります。

英語ノート指導資料にも指導案はありますが、全てティーム・ティーチングによる指導案であり、各学校においては担任単独で授業をする場合も多く、内容も各学校の実態に依拠していない場面もあるため、すぐに活用することが難しい面があります。

外国語指導助手(ALT)は強い味方です。

外国語活動の授業を担当が進める上で、ALTの存在は生の英語を子どもたちに聞かせたり、外国の生活や文化について話してもらったりする上で、大変心強く、頼もしい存在です。また、担任の先生が英語を使ってALTと、たどたどしくても何とかコミュニケーションをとろうとしている態度を子どもたちに示すことで、子どもたちに勇気と自信を与えることにもつながります。

注意すべきことは、ALTに任せきりにせず、授業全体の把握と進行は担任がしっかり行うことです。先生方は、英語は苦手であっても授業のプロです。その点は自信をもって授業を仕組んでください。また、事前打ち合わせをしっかりと行ってください。